

ファーマーズ&キッズフェスタ 2010 開催

J-PAO が共催する「第1回食と農の祭典 ファーマーズ&キッズフェスタ 2010～未来の子供たちのために～」が11月20日(土)21日(日)に東京・日比谷公園にて開催されます(入場無料)。多くのJ-PAO会員の方々が、後援、協賛、出展しています。

日本全国から農業者が集い、おいしい農畜産物と話題の郷土料理の販売、参加してみたいなる農業体験などを設け、わが国農業の実情をご紹介しますとともに、農業の魅力や楽しさをご紹介します。 <http://farmers-kids.jp/>

アグロ・イノベーション 2010 開催

J-PAO が特別協賛している「アグロ・イノベーション 2010」が11月24日(水)～26日(金)に幕張メッセで開催されます。

この催しは、農業経営、青果物の流通・加工・販売を支援する専門展示会として、農業生産、植物工場、青果物の流通・加工から販売までの製品・技術・サービスが一堂に集結しています。

特別セミナーも開催されます(当日先着順)。

入場料は1,000円ですが、ホームページから事前登録することにより無料になります。

ホームページ <http://www.jma.or.jp/ai/>

専門部会の動き (10月分)

【事業化支援・販売支援①】

加工米流通については、今年の制度がどのように運営されるのかを見極めてから協議を再開することとしました。

新たな案件として、植物工場で生産された農産物の販売強化策と露地野菜(大根)の販売支援策の相談があり、内容に関する質疑応答を行いました。

【事業化支援・販売支援②】

前回プレゼンテーションを行った6次産業化を目指している農業者のプロジェクトに対し、課題となっている集客方法等のディスカッションを行いました。

この農業者に対しては、J-PAOとしての意見をまとめて、回答することとしました。

【人材育成①】

「J-PAO 研修農場」(人材育成委員会)の制度の見直しについて、実証実験を行う方向で検討を進めています。そのための課題となっている雇用契約、OFF-JTの内容、修了基準などについて討議を行っています。

【人材育成②】

J-PAO が毎年開催している「トップマネジメント」の開催内容について意見交換を行いました。開催日は2/18の午後、講師は伊藤元重 副理事長に決定しました。事務局にて開催案内案を作成し、パネリストのテーマ案や、パネラーの案とともに次回の専門部会で意見交換することとしました。

【広報】

今回は日本公庫からご提供いただいた「情報戦略クラブ」の会員への提供方法、会員用ホームページの骨子の検討、支援活動事例や会員向けの部会メンバーからの情報提供、J-PAOの政策提言のあり方について討議を行いました。

また、11月からは検討事項が終了しましたので休会となります。

主な活動 (10/15～10/28)

- 10/15 パネルシステム関係農商工連携人材育成研修(経営戦略)(上原、神崎)
- 10/18 新潟県柏崎地域振興局商談会セミナー(神崎)
- 10/19 新潟県新発田市役所販路開拓セミナー(神崎)
- 10/20 栃木県農業ビジネススクール経営改善プランニング(山川氏他2名)
- 10/26 福岡フィナンシャルグループ主催 商談会セミナー・相談会(上原、神崎)

連載 (第4回)

ビジネスとしての農業を考える
～現場からの農業レポート～
自然の恵みの価値

(筆者略歴)

青木理紗 (あおき・りさ)

(株)麦わら農場代表取締役。東京で経営コンサルタントの後、09年より農業生産を開始、法人設立。農業生産、及び農業への企業参入のコンサルティングを実施中。

URL : <http://mugiwara.mooncafe.org/>

私は社会人 2 年目に以前勤めていたコンサルティング会社にて農業に関わるプロジェクトに携わるまで、全く農業というものについて知らなかったし、考えたこともなかった。私は両親共に東京出身で、田舎に触れ合う機会がない。中学から大学までずっと東京、食べ物はどう作られるかということを考えるきっかけもなく、農業をどのような人たちが行っているのかも全く想像がつかなかった。中国からの輸入がほとんどなのだろう、と思っていた。日本を支える次世代が、生きるということに不可欠な“食べ物”について全く無知であることに危機感を覚えたのは私の農業を始める原点の一つでもある。

この食べ物への無知、生きることへの無関心な状況は徐々に変わりつつあると身を持って感じる今日この頃である。農業、自給率に関わる記事がよくメディアに見かけるようになってから、学生、社会人、農家と消費者をつなぐような取り組みをしたい人等がよく農場を訪れてくれている。その中から一緒に何かしようというネットワークが広がっていている。

以前はネットワークを作ったり、認知・集客すること自体にお金が掛かっていたが、最近はインターネット、そして SNS、ブログやツイッター等の無料のネットワークツールが存在することで、農場が直接消費者と情報を交換できるようになり、生産者が中心となったネット

ワーク作りが容易にできるようになり、経営的な観点からも、生産のモチベーションという意味からも、販路の開拓という点からも革新的な変化が起こりつつあると感じてる。

私の農場では学生のネットワーク化を行っており、現在 2 種類の学生達のグループがある。1 つは「マンパワージャパン喜び組」という部隊である。主に東大の学生が中心なのであるが、農業や食・環境に興味があり、現場を実体験することに重きを置いている。人を喜ばせるのが最大の喜びというすばらしい理念を掲げてくれており、月に 2～4 回程お手伝いにやってきて、草取りや種まき、収穫といった一時的に稼働の発生する作業を終わらせてくれる。

もう一つは「イケメン部隊」という学生達がいる。名前の通り、外見がさわやかというだけの集まりなのだが、彼らは販売やイベントを手伝ってくれている。農場の直売は外食を始めとして、いろいろな店舗の集客として活用できる。最近、当農場は恵比寿で直売の定期的な開催や、若干婚活的なニュアンスを含むお料理教室のパーティーとコラボして野菜の拡販を目指しているのであるが、そういったイベントにおいて、若い男の子と野菜という組み合わせが新鮮らしく、集客力が格段に向上する。

農業とは食べ物を作る産業であり、生産においては生活の原点があり、口に入るまでに料理という楽しさがある。それらの過程は生きていくために必ず必要なことだからこそ、どんな人とも共有できるし、いろいろな可能性があると感じる。

種から生まれた野菜を通じ、いろいろな人と繋がっていく中で生きる喜びってこういうことなのかなあとシンプルに感じている今日この頃である。IT・情報化の社会の中においても、自然の恵みがいかに基本的で偉大なものかと改めて感動する。